

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1991200096		
法人名	芙蓉建設株式会社		
事業所名	グループホーム桜森荘		
所在地	山梨県富士吉田市旭1丁目10番3号		
自己評価作成日	令和 4 年 10 月 19 日	評価結果市町村受理日	令和 年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/19/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和 5 年 2 月 6 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高齢者の生活を支える事業者として、地域との共存を図りながら介護サービスを提供し、地域福祉の観点からも気軽に相談も出来るような運営をしていきたい。高齢者がマイペースで過ごされる中で、自らの意思に基づき自らの能力を最大限に活かして、自立した質の高い生活を送ることが出来るように支援したいと考える。
また、最期まで安心して生活できる場所として利用者・家族にとらえてもらえるよう、医師と薬剤師・看護師・介護員のチームワークで支えたい。
一人一人が考えて介護サービスが提供できるよう、職員の研修にも力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者・家族の想いを大切に、富士の麓に根ざした暮らしの継続を目指していました。地域とつながりながら、希望する生活を提供するために、ユニットリーダーを置き、利用者の望む生活ができていないか、職員が向き合っているか、を考え毎月全体会議をもたれていました。またユニットリーダーを次の管理者に育成もされていました。職員配置にない看護師も配置され、介護計画作成に医師、歯科医、薬剤師など多方面の意見を聞き、どんな生活を望み、張り合いの持てる生活が出来るか対応されていました。地域に対して、災害時に備蓄品の提供やスペースの提供も検討されていました。地域で暮らした方を、地域と共に支援を行っていました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている(参考項目:2,20) (※窓越しの面会など距離をとった交流)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)(※感染対策を行い、可能な場所に出かけているか)(※戸外とは事業所の庭に出る等も含みます)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念、新しく設定した運営方針を事務所内に掲示し職員の意思統一を図っています。桜森荘職員行動指針を新たに定め周知徹底の為、毎日朝礼で確認。	理念、新しく設定した運営方針を事務所内に掲示し職員の意思統一を図っています。桜森荘職員行動指針を新たに定め周知徹底の為、毎日朝礼で確認。	理念に基づき運営方針の見直しを行い、事業所にあった支援が行えるよう職員と検討されていました。理念や運営方針は朝礼で確認され、利用者の希望に沿った支援や介護が行われているか確認されていました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	西丸尾自治会第1班に加入。例年では自治会の行事等入居者、スタッフと共に参加(夏祭り・清掃活動等)していますが、コロナの影響によりイベントが中止、清掃のみ参加。また日曜日の食材等に関してはできるだけ近所店(肉、魚等)で購入。	西丸尾自治会第1班に加入。例年では自治会の行事等入居者、スタッフと共に参加(夏祭り・清掃活動等)していますが、コロナの影響によりイベントが中止、清掃のみ参加。また日曜日の食材等に関してはできるだけ近所店(肉、魚等)で購入。	コロナ禍のため地域でのイベントが中止になっています。以前は町内清掃や地域祭りの子ども神輿の休憩所、放課後デイサービスとの交流でハロウィンのお菓子を配ったりと地域との交流がありました。敬老の日には子ども達から手紙を頂き、返事を出すなどできていました。コロナ禍でも地域の清掃活動に、利用者と共に参加されていました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年コミュニティカフェを開放しているが、コロナウイルスの影響により来荘制限を行っている。認知症の相談は変わらず受け付けており相談、支援の方法等助言を行い、行政サービスにつながったケースもある。	例年コミュニティカフェを開放しているが、コロナウイルスの影響により来荘制限を行っている。来訪者には当該施設がどのような仕組みでなされているか、認知症の理解、相談、支援の方法等助言。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	感染状況により書面で照会のみにした回もある。入居者代表、家族会代表、地域代表(自治会等)等の意見を取り上げ、消防団の方々による施設内見学・ホームページの内部ページを作成(ログイン画面の設定)。また、非常時の介助方法を居室上部にマークで貼り付けを行っている。	感染状況により書面で照会のみにした回もある。入居者代表、家族会代表、地域代表(自治会等)等の意見を取り上げ、消防団の方々による施設内見学・ホームページの内部ページを作成(ログイン画面の設定)。また、非常時の介助方法を居室上部にマークで貼り付けを行っている。	運営委員会は2か月に1度開催されていましたが、コロナ禍のため、行事や活動の報告を書面やホームページで行うこともありました。運営委員会では、地域の方の協力をお願いできるか検討されていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も変化している為、問い合わせのあった際等、随時、市の包括に伝達。運営推進会議ではこのような対応等で状態が回復している等ケアサービスを伝えながら、協力関係を構築。	当該施設の現状待機者、居室の満室状態等、地域の状況も変化している為、問い合わせのあった際等、随時、市の包括に伝達。運営推進会議ではこのような対応等で状態が回復している等ケアサービスを伝えながら、協力関係を構築。	市町村とは情報交換を常に行い、地域の待機者や事業所の状況の共有を行っていました。コロナ関係の情報は保健所を中心に行い、情報や状況の共有ができていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄間の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については、職員間に正しく理解出来るよう研修を行い、玄間施錠等、言葉の拘束に対してもお互い注視しながら拘束のないケアを実施。(内部研修済み)	身体拘束禁止の対象となる具体的な行為については、職員間に正しく理解出来るよう研修を行い、玄間施錠等、言葉の拘束に対してもお互い注視しながら拘束のないケアを実施。(内部研修済み)	身体拘束や虐待については研修を行い、不適切ケアが行われていないか、ケアの中に気になることはないか、職員の意識を高めていました。玄間の施錠、コロナ禍での外出制限、どうしたら利用者のストレスにならないか、職員が意識をもって検討されていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体会議で高齢者虐待防止研修として行い、事業所内での虐待が見過ごされることがないように注視予防に努めている。	職員全体会議で高齢者虐待防止研修として行い、事業所内での虐待が見過ごされることがないように注視予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や成年後見制度については、メディアを使用し自由に研修できるような導入、その中の研修項目(必須項目ではない)となっている。現在、権利擁護を高めるための取り組みを行っている。過去1名、包括・社協との連携の下、最期を迎えた時の対応について、樹木葬の場所見学・永代供養等、本人を含めて話し合い対応。	日常生活支援事業や成年後見制度については、メディアを使用し自由に研修できるような導入、その中の研修項目(必須項目ではない)となっている。現在、権利擁護を高めるための取り組みを行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している(その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う)。	契約の締結、解約、改定の際には、時間をかけて説明し分からない部分、疑問点を、理解・納得できるまで時間をかけて実施している(その場では理解しても、あとで再度問い合わせがあれば説明を行う)。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望等取り入れ運営に反映できるよう、ご意見箱や気づき箱を玄関ホールに設置。	意見、要望等取り入れ運営に反映できるよう、ご意見箱や気づき箱を玄関ホールに設置。	家族には毎月ユニットリーダーが手書きの報告書を作成し、様子をお知らせしていました。その時に電話でも連絡を取り、意見を聞いていました。また言いにくい意見に対応できるよう、意見箱が設定されていました。しかし、意見を入れる方はいないとのことでした。アンケートには感謝や優れている意見が多く記載されていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議(月1回)の場、またはその都度職員の意見や提案を聞いて反映。半年に1回程個人面談を設け各種提案や悩み等聞いている。またユニットリーダーに意見・提案が行くこともある。	職員全体会議(月1回)の場、またはその都度職員の意見や提案を聞いて反映。半年に1回程個人面談を設け各種提案や悩み等聞いている。またユニットリーダーに意見・提案が行くこともある。	職員の意見は積極的に受け入れるように、意見箱でなく「気づき箱」を設置されていました。また職員の意見を取り入れるために各ユニットにリーダーを設け、ケアや勤務の困りを汲み取っていました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件等に努めている。	管理者や職員個々の実績、勤務状況を把握し各自が向上心を持って働けるように職場環境・条件等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員1人1人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(介護福祉士等)。施設内では研修の機会を設けている。	管理者や職員1人1人のケア能力と力量を把握し、研修を受ける機会の確保を進めている(介護福祉士等)。施設内では研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年同業者との交流、各種の研修の照会を行っていたが、今年はコロナウイルスの影響により同業者との交流行えず。	例年同業者との交流、各種の研修の照会を行っていたが、今年はコロナウイルスの影響により同業者との交流行えず。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	認知症などで同じ話を繰り返すが、その都度粗略にせず、不安、要望等耳を傾け、本人の安心を確保するため関係づくりを実施。24時間シートや自分史などを活用して把握し、改善方法の検討、支援を実施	認知症などで同じ話を繰り返すが、その都度粗略にせず、不安、要望等耳を傾け、本人の安心を確保するため関係づくりを実施。24時間シートや自分史などを活用して把握し、改善方法の検討、支援を実施		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申請に来られてから入居までの間に、桜森荘の方に認知症の対応の相談に来られる方がいた。どういった関わりをしていくべきかなど認知症の方との関わり方のアドバイスを送り対応しました。その方は入居となり現在もサービスを受けられています。	帰宅願望があり、落ち着きがなくなったり、盗難妄想も激しくご家族も自宅でも目が離せない状態で、こちらにもいろいろそのことで迷惑をかけることもあった。興奮しない環境づくり家族とも連携して(電話を自由にして安心して頂く等)関係づくりを実施。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入院・パーキンソン発病による状態の変化に伴い、退院時に福祉用具の提供、リハビリができるよう計画を見直しサービスの対応を実施。	前施設、入居時はリハビリ・パットを使用。腹部を気にされる事も頻繁にあったが、失禁もなく総合的な快適さ等で判断し、布パンツを使用。それ以降も失禁は見られず、腹部を気にされる事もなくなった。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	野菜切り・洗濯もの干し・食器ふき等家事を共に行ってくれる方もいれば、食事の際、他者のお世話をしてくれる方もいる。また自主的に裁縫や草取りなどご利用者様が出来ることを職員の目の届く範囲で自由にして頂き、職員も助かっている。	野菜切り・洗濯もの干し・食器ふき等家事を共に行ってくれる方もいれば、食事の際、他者のお世話をしてくれる方もいる。また自主的に裁縫や草取りなどご利用者様が出来ることを職員の目の届く範囲で自由にして頂き、職員も助かっている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ADLの低下・栄養状態の悪化している方に、午前のお茶の際にプロテインを飲むことを理解していただき、食事・栄養摂取への契機となるよう働きかけを行い、数か月かかったがしっかり食べられるようになった。家族も喜んでいる。看取りの方に対しては、可能な限りご本人と家族の時間を大切に過ごして頂いている。	コロナウイルスの影響により面会、外食等制限を行っているのが現状。但し、食欲低下の方については、感染対策の上で配慮しながら面会を解除。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限があるが、ビニールカーテン越しの面会を実施中。人と人との関係が途切れないよう支援をしている。以前は46年ぶりに再会した息子さんと面会出来たこともあり。携帯電話や手紙のやりとりなどする方もいる(投函は職員)	面会制限の為、馴染みの人や子供たちとの手紙のやり取りはしている人もいる。また、携帯電話を持っている方も、自由に事務室で電話を使って頂いている。	コロナ禍で面会が制限されていますが、玄関にビニールカーテン等をし、少人数の面会や他者とかわらない工夫など調整されていました。家族や昔の同僚友人などが面会されていました。また手紙のやり取りも、職員が支援しながら行っていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者と関係が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	比較的優しく穏やかな方が多く、トイレ誘導までしようとするため、都度職員が気にしながら、対応している。支えあう気持ちは大切にしたい。	食事の際、他者のお世話をしてくれる方もいる。寂しくて眠れないと、話される利用者様にも、一緒に寝ようと気遣ってくれる方もいて、都度職員が気にしながら、対応している。支えあう気持ちは大切にしたい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お亡くなりになった方のご家族が数か月たって来所し、家の片づけで出た使えそうなものを持って来ていただいた。また、半年以上前に利用されていた家族から度々介護の相談もあった。今後もサービスが終了しても必要に応じ相談にのれるよう、努めている。	頻繁な医療が必要な状況となり利用が終了し、医療機関で退院先について相談に乗っていただいている方に対し、どこがいいか意見を聞かれた事がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に会話をする機会も多く、本人の要望、意向がよく聞ける状態であるため把握している。医師からの勧めと本人の要望が異なることもあり、その際には何度か話し合い、すり合わせをしている。	日常的に会話をする機会が多く、本人の要望、意向がよく聞ける状態であるため把握している。一人困難な方はいるがある程度は会話で把握できている	日常的にご自分の意見を伝えられる方はもちろん、あまり伝えてくださらない方には、基本情報の探りや全職員が向き合う期間を作り、集団の中でも個々の意見をしっかりと汲み取れるように努めていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活歴、今までの生活習慣、環境等、ご本人または家族より、自分史を記入して把握。それ以降も、話の中で聞き取った内容を、職員間で共有していることもある。	生活歴、今までの生活習慣、環境等、自分で伝えられる方に関しては本人より、伝えられない方には、家族に依頼し自分史をお願いして把握。入居後も家族に以前の生活スタイルについて再度聞くようなこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調の変化の激しい方にも、出来る限りタイムリーに対応できる様、状態把握している。状況に応じてはオンコール対応している。	1人1人の毎日の過ごし方、近々の心身状態、有する力等状態の経過を見ながら、本人と話しながらその日の暮らし方を決定。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らすための課題、ケアのあり方について本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計画づくりを実践。	より良く暮らすための課題、ケアのあり方について本人、家族、関係者と話し合い(職員全体会議も含める)、意見、アイデアを反映して、現状に即した計画づくりを実践。また、薬剤師がよく介入してくれ、減薬できた方もいる。	職員間の情報共有はユニットリーダーを中心に意見を聞き、また往診医や同行している薬剤師の意見、歯科医の意見を参考に、その方にあった介護計画、モニタリングが行われていました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活、ケアの内容、気づき等個別にシステム情報に記録、日報に申し送りを記入し、職員間で情報を共有、実践の様子を担当者が経過記録を残すようにしている。計画の見直しに活かせるようにしている。情報の共有が今一つ徹底しない為、継続が必要な申し送り表をユニットごとに作成し、徹底を呼びかけている。	日々の生活、ケアの内容、気づき等個別にシステム情報に記録、日報に申し送りを記入し、職員間で情報を共有、実践の様子を担当者が経過記録を残すようにしている。計画の見直しに活かせるようにしている。情報の共有が今一つ徹底しない為、継続が必要な申し送り表をユニットごとに作成し、徹底を呼びかけている。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パーキンソン病で発声がはっきりしない方の、相続の話・預貯金の話し合いに金融機関と共に立ち会った。過去には日常生活支援として、包括・社協との連携の下、お金の管理の状況を報告。最期を迎えた時の対応について、ご本人の要望を聞きながら、樹木葬の場所見学・永代供養等、本人を含めて話し合い対応した。	既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいない。ただし、預り金が多額な場合、本社預かりとして、そこからの引き出しを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍という事もあり、地域資源はあるが、特別、資源の活用まで結びついてはいない。	コロナ禍という事もあり、地域資源はあるが、特別、資源の活用まで結びついてはいない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医のまま継続の方もいる。看取り対応の方は往診時に必要に応じ家族立ち合いや話し合いの場を持つようにしている。状態に応じ、協力医療機関や外部の主治医との連携も、柔軟に対応して頂いている。場合によっては、夜間往診にも立ち会っている。	これまでのかかりつけ医のまま継続の方もいる。看取り対応の方は往診時に必要に応じ家族立ち合いや話し合いの場を持つようにしている。状態に応じ、協力医療機関や外部の主治医との連携も、柔軟に対応して頂いている。	かかりつけ医の受診を継続されている方、事業所での協力医受診は本人家族の希望に沿って対応されています。外部受診を希望されている方には、コロナ禍対策のために保健所と相談しながら、担当医に訪問診察していただくよう対応されていました。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤であるため、職場内で相談・報告は適時適切に行われ対応出来ている。	看護師が常勤であるため、職場内で相談・報告は適時適切に行われ対応出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院しても支援連携室(市立、日赤、回生堂病院等)と早期に退院できるように施設側の体制を整え情報交換、相談に努めている。連携室とも日頃から情報を共有。	入院しても支援連携室(市立、日赤、回生堂病院等)と早期に退院できるように施設側の体制を整え情報交換、相談に努めている。連携室とも日頃から情報を共有。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について入居時に説明。実際に看取りの状態にある方にも、早い段階から本人・家族と話し合い、場合により医師とも情報共有・話し合いの場を設け、当該施設で出来る内容を理解しあい、チームで支援に取り組めるよう職員に急変時の対応方法を申し合わせしている。	重度化や終末期のあり方について入居時に説明。実際に看取りの状態にある方にも、早い段階から本人・家族と話し合い、場合により医師とも情報共有・話し合いの場を設け、当該施設で出来る内容を理解しあい、チームで支援に取り組めるよう職員に急変時の対応方法を申し合わせしている。	重度化や終末期には本人家族の意向を尊重されています。看護師が常駐しておりできるだけ対応されていますが、事業所としての限界もあり医療機関や特養と連携し本人家族の希望に添えるようにしていました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置、初期対応の定期訓練は実施していない。初回研修に研修を行い、救急対応については年1回研修程度。体調不良者がいる場合には、看護師が退勤する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応を実施。	応急処置、初期対応の定期訓練は実施していない。初回研修に研修を行い、救急対応については年1回研修程度。体調不良者がいる場合には、看護師が退勤する前には夜勤者、他職員に対応を連絡、オンコール対応を実施。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難手順、避難ルート確立されており、地域(近所)の消防団に施設見学をしてもらい、施設の構造、設備、入居者の部屋割りなどを把握して頂いた。運営推進会議の場で、有事の協働について話し合いもされた。概ね月1回施設内での避難訓練を実施出来ている。	避難手順、避難ルート確立されており、地域(近所)の消防団に施設見学をしてもらい、施設の構造、設備、入居者の部屋割りなどを把握して頂いた。運営推進会議の場で、有事の協働について話し合いもされた。概ね月1回施設内での避難訓練を実施出来ている。	ハザードマップで指定される地域にはなっていませんが、事業所ではイベント的に月1回の避難訓練を行いました。年1回は総合的な訓練が実施されました。地域消防団等の協力も考え、居室には個々の移動手段が可視化されていました。また市で行った避難場所の移動に時間がかかり、問題として検討されました。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけが継続的に出来るよう内部研修をしつこく行っている。しかし、時に慣れ合いの形で声掛け・対応してしまう職員には注意したり、面談することもある。	人格を尊重し、プライドやプライバシーを損ねない言葉かけが継続的に出来るよう内部研修をしつこく行っている。しかし、時に慣れ合いの形で声掛け・対応してしまう職員には注意したり、面談することもある。	声掛け等、個々を尊重して介護や支援を心がけていました。トイレや入浴介護は、どうしたらプライバシーを守れるか、例えばトイレに移動されているときに、必要なペーパーを事前に用意しておくなど工夫されていました。基本的に同性介護になっていました。	

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日着たい衣服など選定して頂いたり、機会は少ないがおやつを代表で買いに行っていたりしている。思いや希望を表出できない人はいない。	今日着たい衣服など選定して頂いたり、機会は少ないがおやつを代表で買いに行っていたりしている。思いや希望を表出できない人はいない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	個々の生活習慣の違いに即した生活を提供している(就寝、起きていたい方は最大21時就寝であるが、居室内は自由にテレビを見たり起きてもらっている)。	個々の生活習慣の違いに即した生活を提供している(就寝、起きていたい方は最大21時就寝であるが、居室内は自由にテレビを見たり起きてもらっている)。		
39		○身だしなみやおしやれの支援 その人らしい身だしなみやおしやれができるように支援している	頭髮、無精ひげ等身だしなみを大切に。その方なりのおしやれができるように支援している。	頭髮、無精ひげ等身だしなみを大切に。化粧をする方もいる。その方なりのおしやれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、食器拭きのお手伝い等職員と一緒に出来る方は実施して頂いている(生活の継続)。楽しい食事ができるように嫌いなものに対しては代替品を提供。食事の際、検食を兼ねて職員と一緒に摂っている。	盛り付け、配膳、食器拭きのお手伝い等職員と一緒に出来る方は実施して頂いている(生活の継続)。楽しい食事ができるように一部嫌いなものに対しては代替品を提供。食事の際、検食を兼ねて職員と一緒に摂っている。	食事は業者委託で行っていました。ご飯は温かいものを提供しようと事業所で炊いていました。日曜の食事は事業所で提供されるので、利用者の希望を取り入れていました。毎日の食事で苦手なものがある場合は、代替品で対応されていました。食事は楽しみや張り合いのために、利用者と一緒に、配膳や片付けを行っていました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録。1日を通して確保できるよう支援。夏場はポカリを起きたら提供。状態に応じジュレ(水分接種用ゼリー)を召し上がる方もいれば、コーヒーを飲んでいただいている。水分摂取確保のためトイレに起きる度にポカリを50mlずつ提供。	食事量、水分量を記録。1日を通して確保できるよう支援。夏場はポカリを起きたら提供。状態に応じジュレ(水分接種用ゼリー)を召し上がる方もいれば、コーヒーを飲んでいただいている。9人のうち一人は日中水分摂取が少なく夜間心臓発作を起こしやすい為、トイレに起きる度にポカリを50mlずつ提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	舌汚れ、口臭生じないように、起床後、毎食後に1人1人の状態に応じた口腔ケア実施。歯磨き粉種類、歯ブラシ、ポリドント、口腔ガーゼ等。	舌汚れ、口臭生じないように、起床後、毎食後に1人1人の状態に応じた口腔ケア実施。歯磨き粉種類、歯ブラシ、ポリドント、口腔ガーゼ等。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	9人中2人は自立。1人1人の排泄時間、習慣を把握して声掛け、トイレでの排泄、失禁を低減し、自立に向けた支援を実践。	9人中2人は自立。1人1人の排泄時間、習慣を把握してトイレでの排泄、失禁を低減し、自立に向けた支援を実践。今年入居した方は、リハビリパットの使用を終了し、布パンツで過ごされている方もいる。	排泄の自立に力を入れています。入所時から改善された方もおり、日中は布パンツで対応ができていました。気持ちのよい日常生活を送れるように支援されていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声掛け、整腸剤内服等、個々に応じて予防に取り組んでいる。軽い運動はしてはいるもののコロナ禍もあり十分ではない。今年入居された方はかなりの便秘であったが、下剤の量・種類が少なくなり、持参した浣腸は一度も使用せず過ごされている。	水分摂取の声掛け、整腸剤内服等、個々に応じて予防に取り組んでいる。軽い運動はしてはいるもののコロナ禍もあり十分ではない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそって支援をしている	曜日は確定しているが、入浴したくない日等は、他入居者に話して入浴日を交替して頂いている。また日曜日は予備日として希望があれば入浴。出来る限り同性介護とし、介助している。毎日でも入浴したい方の希望には沿っていない。	曜日は確定しているが、入浴したくない日等は、他入居者に話して入浴日を交替して頂いている。また日曜日は予備日として希望があれば入浴。出来る限り同性介護とし、介助している。毎日でも入浴したい方の希望には沿っていない。	入浴は一応決まっていますが、本人の希望に沿っていました。また同姓介護を基本にされており、勤務で同姓介護ができないときは入浴日を変えるなど工夫されていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前夜あまり眠れなかった、遅くまで起きていた等時々の状態に応じて朝寝、昼寝など短時間休息を提供。食事を少し遅めにとっていたりすることも。また夜間のどの渴き等水分を提供。	前夜あまり眠れなかった、遅くまで起きていた等時々の状態に応じて朝寝、昼寝など短時間休息を提供。また夜間のどの渴き等水分を提供。寂しがりの方で、寝る時にそばにいてほしい要望があるときには手を握るなど援助することもある。		

自己評価および外部評価結果

事業所名

グループホーム 桜森荘

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(ふじざくら)	ユニット名(ふよう)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ユニット単位で内服一覧表あり。薬の目的、副作用等理解できるよう、いつでも注意書きを見れるようにしている。症状の変化の確認も特に注意しなければいけない方には申し送りを行っている。一時薬が処方されたときにも付箋を張り、一目瞭然の状態にしてある。	ユニット単位で内服一覧表あり。薬の目的、副作用等理解できるよう、いつでも注意書きを見れるようにしている。症状の変化の確認も特に注意しなければいけない方には申し送りを行っている。一時薬が処方されたときにも付箋を張り、一目瞭然の状態にしてある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合い(仕事の提供:食器ふき、洗濯物たたみ等)や喜び(嗜好品提供等)のある日々を過ごせるように役割、気分転換(周囲散歩、軽い体操等)を実施。脳トレを多く活用。毎月、イベントを実施。(コロナウイルスの影響により施設内で出来るイベントを多く実施)	張り合い(仕事の提供:食器ふき、洗濯物たたみ等)や喜び(嗜好品提供等)のある日々を過ごせるように役割、気分転換(周囲散歩、軽い体操等)を実施。脳トレを多く活用。毎月、イベントを実施。(コロナウイルスの影響により施設内で出来るイベントを多く実施)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルスの影響により外出事はお花見程度で、他は行えませんでした。近くへの散歩・ドライブ・花の水やりや施設内で出来るイベントに力を入れて対応。庭や表に出る機会は作っても利用者の希望(家に帰る、外食をするなど)に沿ったものではない。	コロナウイルスの影響により外出事はお花見程度で、他は行えませんでした。近くへの散歩・ドライブ・花の水やりや施設内で出来るイベントに力を入れて対応。庭や表に出る機会は作っても利用者の希望(家に帰る、外食をするなど)に沿ったものではない。	コロナの為思うような希望に沿った支援は行えていませんが、毎月の行事として、外出は散歩やドライブ、日曜日の食材の買い物は感染予防をしながら行っていました。以前のように、家に帰る、知人と会う、外食をするというような希望に対応できるように検討されていました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全入居者ではないが、一部入居者には、バックや現金を家族と相談して自己責任で持って頂いている方もいる。	全入居者ではないが、一部入居者には、バックや現金を家族と相談して自己責任で持って頂いている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話をかけたいと要望される方に関しては、事前に家族の許可を頂いておき電話をしたりしている。携帯電話を持っている方もいる。手紙もやり取りする方も2名いる(返信、年賀状、暑中見舞い等)。	家族に電話をかけたいと要望される方は自由に電話している。携帯電話を持っている方もいる。暑中見舞いを、ご本人に聞きながら職員が代筆を行い、ご家族に出したところ、大変喜ばれていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体を設計。天窓で自然の光を取り入れたり、自然な風を取り込んでいる。庭スペースでの日光浴等天候が良い日に随時実施。	周囲の事業所に比べ居心地の良い共用空間を建物自体を設計。天窓で自然の光を取り入れたり、自然な風を取り込んでいる。庭スペースでの日光浴等天候が良い日に随時実施。駐車場の草取りをしに外へ出る方もいる。	共有スペースは掃き出し窓になっており、デッキで日光浴ができるなど解放感のあるものです。各ユニットは行き来ができます。コミュニティスペースは利用者が作った壁画が飾られ、季節が感じられる工夫もされています。大型テレビが設置され、ゆったりとした空間になっていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コミュニティカフェの活用。最近ではコミュニティカフェに行かれご自身が観たいテレビを観ながら、くつろがれている方もいる。	コミュニティカフェで職員が昼食を食べていると話をしに来る方もいる。気の合う入居者同士と共同フロアで演歌を聞いたり歌ったりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫。(テレビ・ラジオ、筆筒・鏡台などの家具、アルバム等)。	今まで使用していた物品、飾りなどを持ち込んでもらえるように工夫。(テレビ、筆筒・鏡台などの家具、アルバム等)。	これまでの生活を大切に、本人の希望されるものが持ち込まれていました。写真や家で飾られた物、仏壇などを持ってきてる方もいました。食器類は本人の希望で持ち込まれ、使い慣れたものを使用していました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように工夫をしている。	安全かつできるだけ自立した生活が営まれるように工夫をしている。		